

退院にあたり、まずは、本村・齋藤両先生に対し感謝申し上げます。

両氏を支える、スタッフ・麻酔科の先生方、看護師の方々にお礼申し上げます。

<再冠動脈バイパス術 3 枝>これが私の今回の手術名でした。「再」とは十数年前に施したバイパス手術を、もっと条件が悪くなった状態再度行うということ。数年前狭心症で発作を起こし入院した時もこの言葉はありませんでした。「再手術」という言葉が私の内で「タブー」となったのは、この時からです。狭心症を引き起こさない日常生活を送ること、肥満体質を解消する、栄養コントロール等、消極的な生活行動となっていきました。自然と人間の行動は自棄的となり、発作が起きたらその時はその時…運命にまかせようと決めていました。

そんな私を「老」は待っていませんでした。一年半前の夏「胆石症」で入院、痛みを散らした後、胆のう除去手術を行おうとしたところ、全身麻酔に心臓がもたない（危険が大きいという）厳しい結論でした。

ちょうど都合良く、ひっかかっていた石が胆管からズレたため、胆管に人工的パイプを入れ、砂を流れやすくする内視鏡による手術を行いました。

のどを通すときに痛みをやわらげる麻酔であったため影響はさほどでなかったと思われます。

その後は、循環器、代謝、消化器科の定期的検診を受けながら一年半経過いたしました。病魔はそう簡単には看過せず胆のう炎という形で私を緊急搬送させました。一週間の点滴による抗生剤治療により痛みは消えましたが、根本治療には胆のう除去が必要であり、そのためには耐え得る心臓が要ということでした。緊急入院する前に循環器の佐藤修医師より「再手術」の話がありましたが、私の中で「タブー」にしてきたことで正直逃げておりました。

紹介された先生は、本村昇、齋藤綾両先生でありました。

初めてお会いした時、私は本当に「おまかせしたい」心底思いました。

お二人は再手術が可能かどうかなどには言及せず、私の身体の血管の位置を確認していました。「再手術」が当たり前、その自信に満ちた本村先生のやさしい風貌と冷静そのものの齋藤綾先生、この二人のコンビにすべてをおまかせするとその時心に決めました。

12/1 手術、12/13 退院、これは魔法です。前回の手術では、手術から退院まで1ヶ月以上かかっていたはずですが。この10年の医療技術の進歩があるといいながらも私にとっては奇跡としか言いようがありません。

再度このコンビと支えるチームスタッフの皆様感謝申し上げます。

私は次のステップ「胆のう除去術」に向かうため一旦退院いたします。本当にありがとうございました。

追伸：入院中の12月6日に67才の誕生日を迎えましたが、私自身家族すら気づかなかった日を知らせてくれたのは、夕食についていた折り鶴でした。心遣い深く感謝いたします。

追々伸：不良入院患者の私に最後の最後まで退院指導を真摯にして下さった久保看護師に感謝です。